



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

田中, 雅一

CITATION:

田中, 雅一. はじめに. コンタクト・ゾーン 2019, 11(2019): 1-2

ISSUE DATE:

2019-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/243971>

RIGHT:

はじめに

本誌『コンタクト・ゾーン』は、人文科学ならびに社会科学で注目されている^{コンタクト・ゾーン}接触領域についての研究を公表し、議論を活性化する場を提供するために企画された不定期刊行物として、2008年に公刊された。当時、本誌は京都大学人文科学研究所・人文学国際研究センターの基幹プロジェクトである「複数文化接触領域の人文学」（代表：田中雅一）の研究成果を報告する媒体であった。プロジェクトは修了し、その成果は『コンタクト・ゾーンの人文学』（全4巻・晃洋書房）として2012年から翌13年にかけて出版されている。

本誌は、6号から出版拠点を人文科学研究所から同学大学院人間・環境学研究科（文化人類学分野）に移して査読体制を導入し、より多くの読者に読まれることを期待してオンラインによる公刊を開始した。同時に、本誌のバックナンバーもオンラインで公開した。

コンタクト・ゾーンは、アメリカの文学研究家のマリー・ルイーゼ・プラットが『帝国のまなざし』（1992年公刊）で使用したものとして知られている。彼女はヨーロッパを中心とする植民地宗主国（厳密には都市部であるメトロポリタン）と非ヨーロッパ諸国（およびヨーロッパの非都市部）との非対称的な、しかし一方的ではない、「接触」を主たるコンタクト・ゾーンとして想定している。ただし、本誌所収の諸論文から明らかのように、本誌では彼女の問題意識を継承しつつも、対象の拡大や地域概念批判など、さらなる展開を目指していることをことわっておきたい。

本号は、2017年11月11日に京都大学人文科学研究所で開催された、同研究所の共同研究班「ウメサオ・スタディーズの射程」（代表：田中雅一、2015年4月～2018年3月）主催のシンポジウム「特集 証言・告白・愁訴——医療と司法における語りの現場から」（企画：澤野美智子）に基づく同名の特集所収の3論文（澤野の序章を含む）と1コメント、2017年12月9日に京都大学人文科学研究所で開催された京都人類学研究会12月季節例会の「医学部で文化人類学を教える」シンポジウム（企画：浜田明範）に基づく特集「医学教育と人類学の協働のかたち」所収の6論文（浜田の序章を含む）、また投稿論文8本を掲載している。対象も専門も異なるが、コンタクト・ゾーンという観点から研究対象に迫るという点で共通している。論文だけでなく、コンタクト・ゾーンに関わる書物を対象とする書評17本とリプライ5本を併せて読んでいただければ幸いである。

編集にあたっては、石川泰子氏、木戸麻実氏、朝日美佳氏にお世話になった。

最後に、残念なお知らせがある。ほぼ11年にわたって11号を公刊してきた本誌だが、今号をもって廃刊となる。直接的なきっかけは長らく代表を務めてきた田中が京都大学を退職し、国際ファッション専門職大学に移動したことである。田中は、新しい大学の紀要の立ち上げにも携わっているため、これ以上編集業務を継続するのは困難だと判断した。これまで投稿してくださった研究者や院生、また編集委員の方には、この場を借りて御礼を述べたい。大学や専門に限定しなかったことで、苦労も多かったが、思いがけない出会

いもあった。最後にこのような機会を与えてくださった人文科学研究所ならびに人間・環境学研究科には感謝したい。

田中雅一（編集代表）

2019 年 7 月